

QUICKにおけるデータ課題

2024年6月1日

株式会社QUICK イノベーション推進本部

QUICKについて

日本経済新聞社グループの金融・経済情報サービス会社

株式会社QUICKは日本経済新聞社のグループ会社です

53年

創業年数

212社

証券取引社数

QUICK

148社

銀行導入社数

1000社以上

事業会社導入社数

QUICKのサービスは
皆さまにご利用いただいています



日本初の金融情報ベンダーとして1971年の創業以来、証券・銀行をはじめとする金融機関にマーケット情報を提供しています



日経平均株価をはじめ日本を代表するさまざまな指数の算出など日本の金融市場を支える金融情報ベンダーです

Project アート

なぜQUICKはアート・フードテックに取り組むのか？



「データで社会を見える化する会社」
として金融データサービスで蓄積した
技術を活用して、社会課題を解決する
ことがミッション



分野は問わず、データ活用によって
イノベーションが促進される分野に
注力している



データ駆動型の新規事業

- 新しい経済的価値計測手法
- 新しい社会的な価値のある指標
- 新しいデータベースの概念の開発
- 新しいメディアの開発
- 新しい広告手法の開発

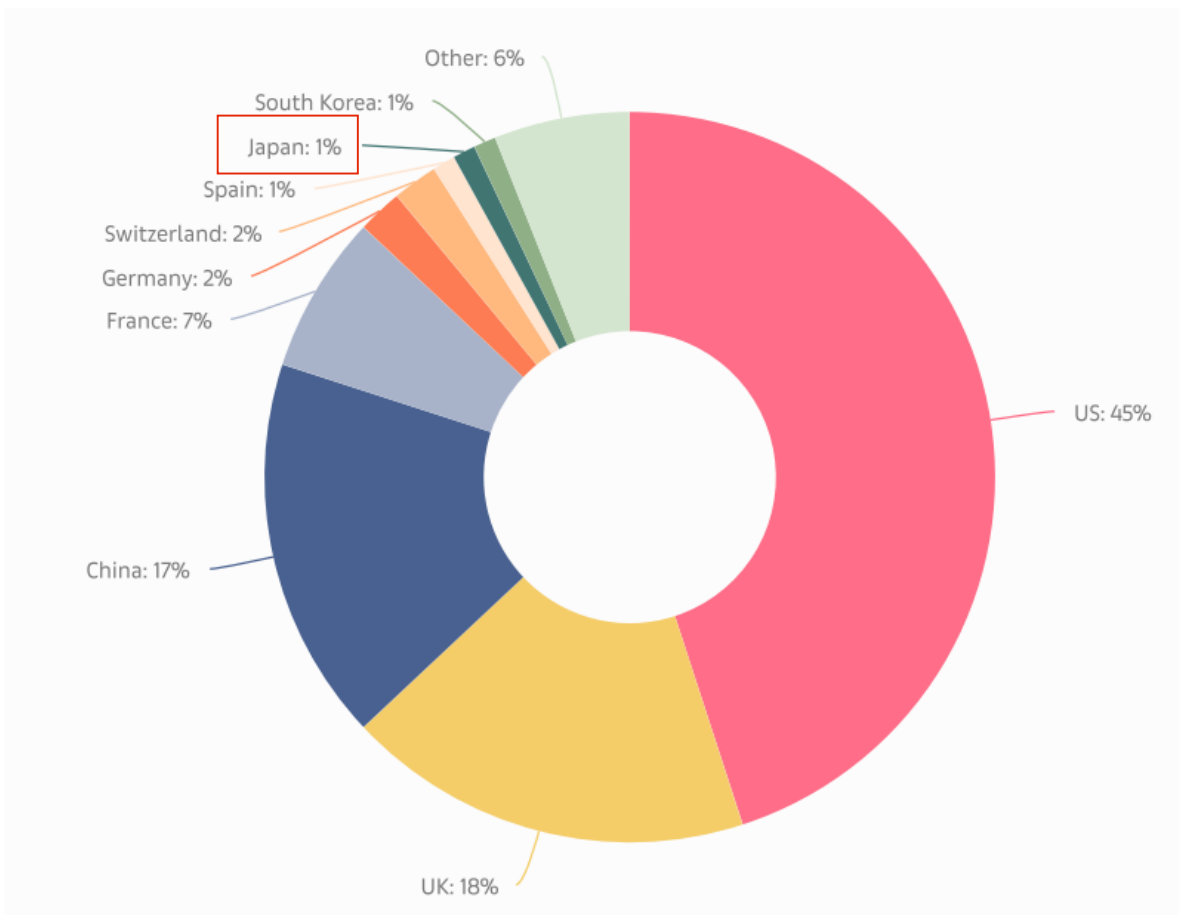


- 新しい不動産指標、不動産の価値計測手法の提供
- ヘルスケアデータ活用による未病領域における事業
- ライフエンディング領域におけるサクセッション事業
- LLMを活用した新しい企業DBのデザイン
- デジタルマーケティングの活用度による投資指標
- フードテック領域におけるリテールメディア事業



データで世界と日本のアートマーケットを見る①

Global Art Market Share by Value in 2022



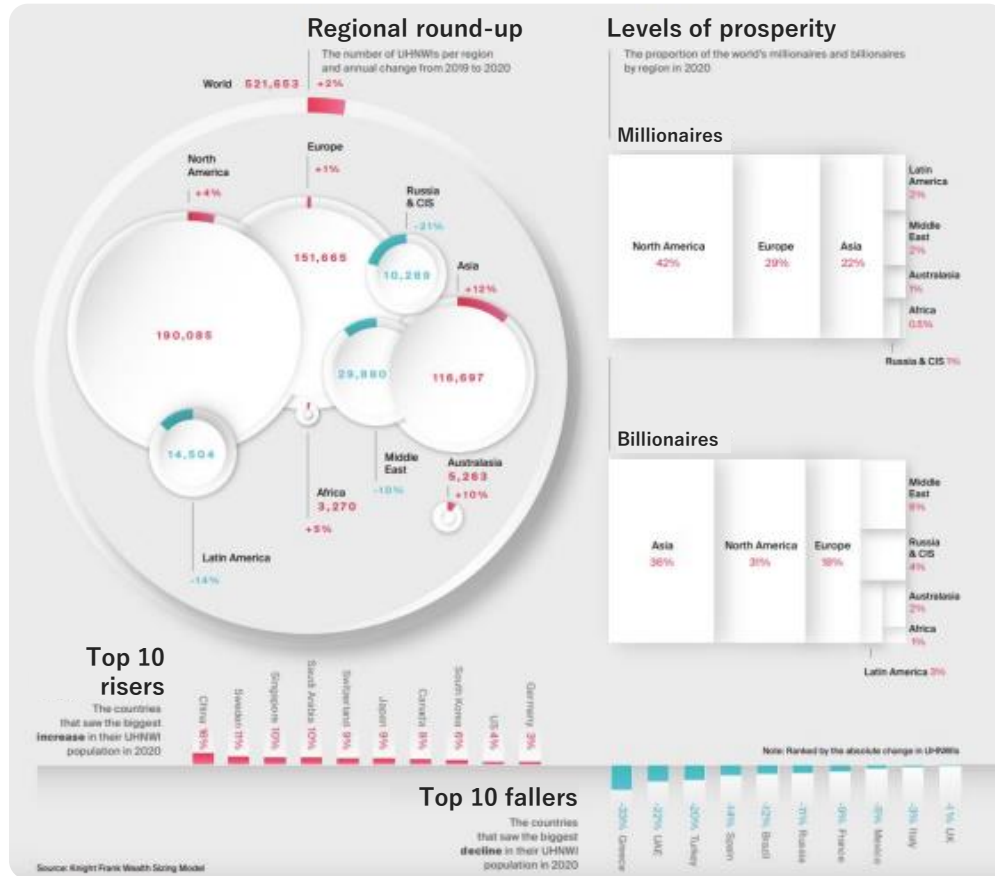
引用元 : THE ART MARKET 2023 A report by Art Basel & UBS

- 2022年の世界のアートマーケットの市場規模は678億ドル。日本が占めるのは推定1%で、当時はGDPが世界3位だったことに比べて非常に小規模な市場
- 一方、2023年の日本の展覧会の入場者数はトップ10で22～45万人の規模

アートは鑑賞対象で購入対象でない文化が根強い

データで世界と日本のアートマーケットを見る②

Global Wealth Distribution



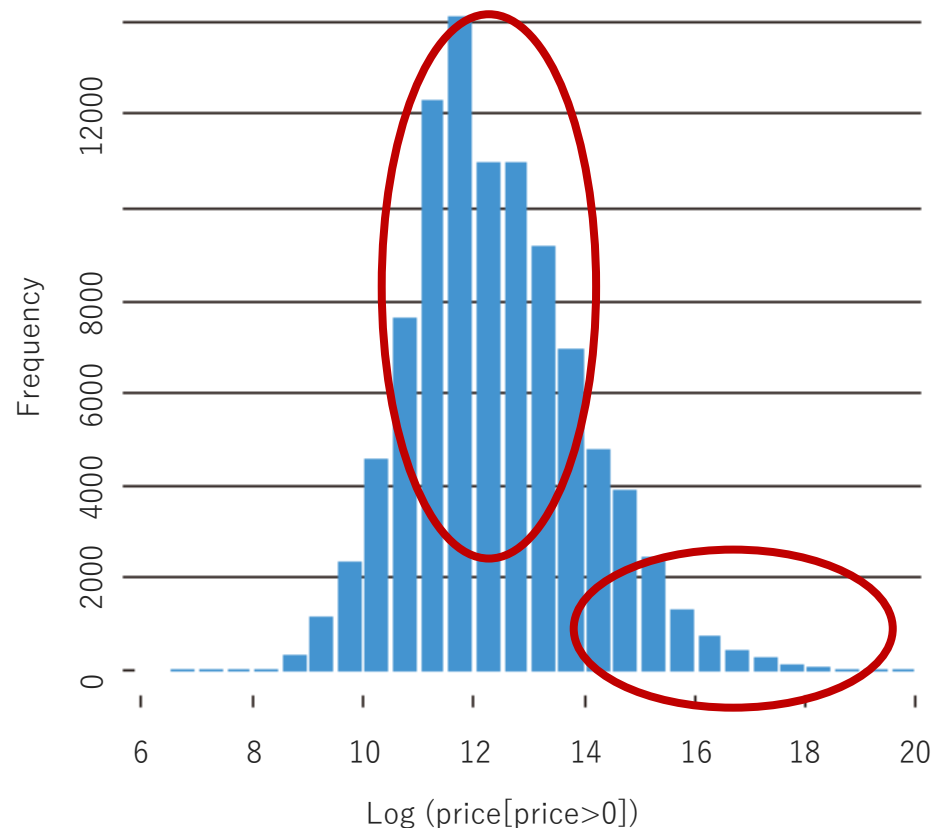
- 富裕層がプライベートジェットで行く場所の上位にはアートフェアがある
- しかし、日本に来る富裕層は観光が目的で、プライベートジェットで日本のアートフェアには来ない
- 日本の富裕層はアートを購入する人が少ない

日本はアートを買う場所となっていない

引用元: THE WEALTH REPORT 2021 by KNIGHT FRANK

データでアート価格の特徴を見る③

落札価格の分布 (対数価格、観測値の数94,434)



注. $\log(\yen 10,000)=9.21$, $\log(\yen 100,000)=11.51$, $\log(\yen 1,000,000)=13.82$,
 $\log(\yen 10,000,000)=16.12$, $\log(\yen 100,000,000)=18.42$

- 国内外問わず、アートの落札価格は左のグラフの傾向がある
- ある価格帯にデータが過剰に集中して、右裾が重い(ファットテール)
- 高価格帯の出現頻度が異常に非常に高い

通常の財やサービスと異なる価格の傾向がある

アートのデータの課題解決できると？ (So what?)

例1



アートを「資産」として管理して、所有する金融資産と比較してポートフォリオを管理できる

例2



アートを価格データで管理して、アート作品を組み入れるアートのファンドを組成できる

例3



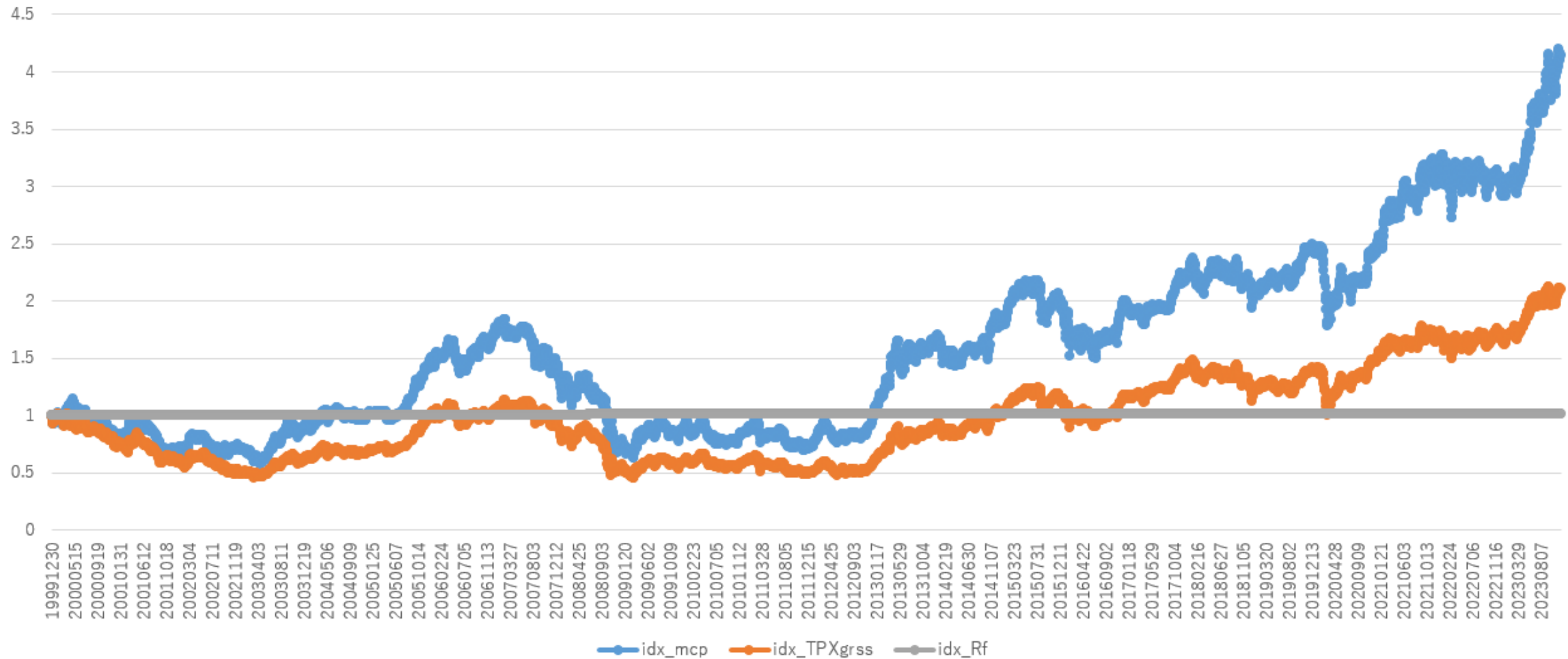
マーケティングなどデータ分析が必須の活動にアートを取り入れることができる、ブランディングにアートを活用できる



他のデータと比較して管理が可能になる

アートをブランディングに活用した上場企業の市場評価

アート施策をブランディングに取り入れる企業と市場全体のリターンとの対比



アートデータにおける解決できない課題

名寄せ

データ駆動型事業を行う場合、

- 「自分に都合の良いデータ」が、
- 「タダで」、
- 「十分な統計量を確保できる」

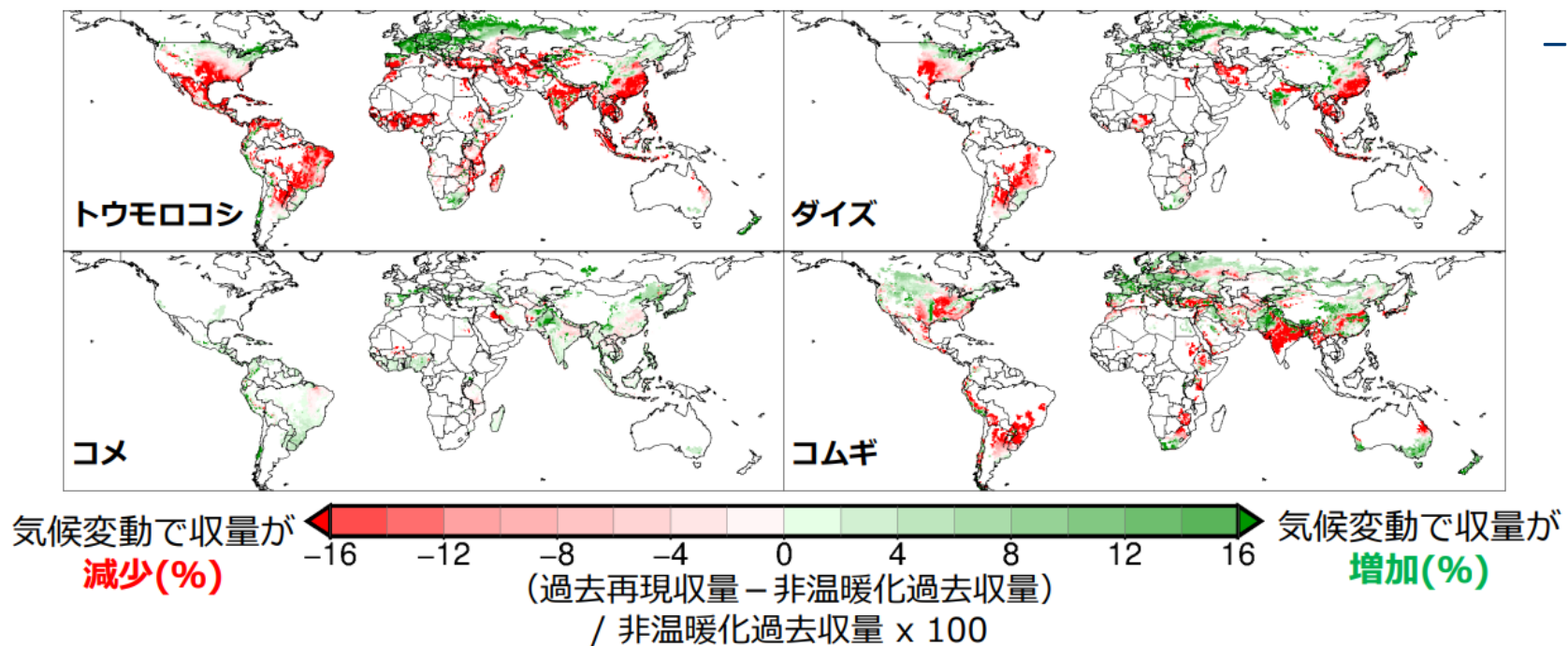
というのは稀です。

対象は
アーティスト名

多くの場合、仕方なくそれしかない正規化されないオープンデータをかき集めて使用することになります。このクレンジングスキルを共同研究対象とします。そのクレンジングスキルの典型例が名寄せとなります。

Project 農業

データで農業の課題を見る

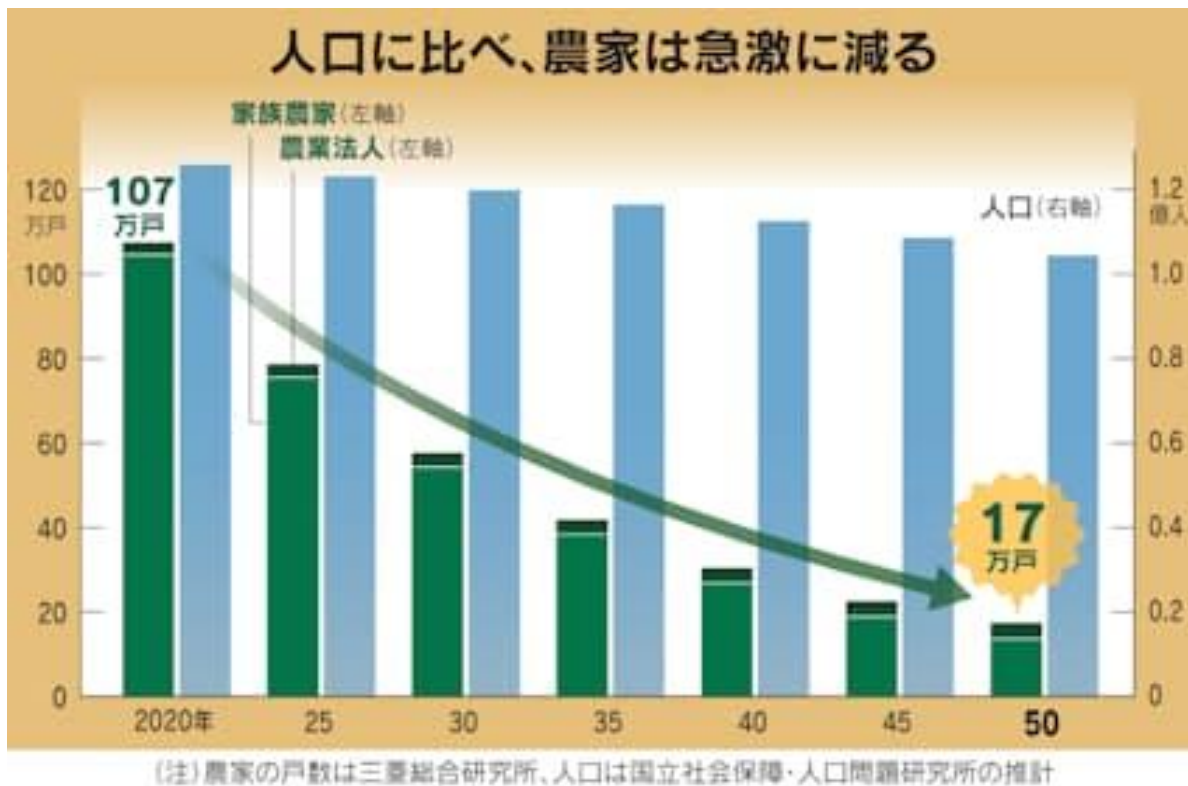


※令和4年度気候変動適応全国大会「気候変動による世界のNARO食料生産への影響と適応」

- 気候変動による穀物生産被害は過去30年間で平均すると世界全体で年間424億ドル（対：非温暖化過去） ※農研機構より

世界的に気候変動に対応しない場合の
リスクは拡大している

データで農業の課題を見る



- 世界の人口増加に伴う食糧不足の危機的状況の中、日本は2050年には現在より81%減の17.7万戸の推計。 ※三菱総合研究所調べ

日本の食料自給率が現状38%(2022年度)であり、今後生産能力は下がっていく。

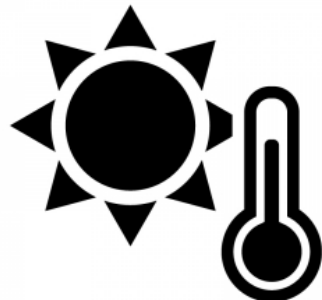
農業のデータの課題解決できると？（So what?）

例1



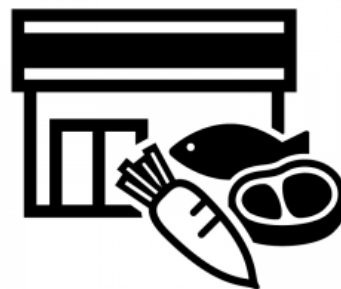
三河屋のようにスーパーに行かずともおすすめの食べたい食材などを目利きして持ってきてくれます

例2



気候のデータ掛け合わせることで、異常気象の予測から収穫の時期の調整や対策を講じることができます

例3



食品ロスが減ること
で無駄な生産を減らし、
食材の質を高めることで
農業から日本を元気にします



日本の生活の
質を高めることで
人々を元気にする

野菜の市況データにおける価値創造は



再定義

市況データとその他のオープンデータを掛け合わせることで、農業の新しい指標を再定義することを探索する。

利用想定

- ・ サプライチェーン（生産、物流、流通）
- ・ 食料安全保障における意思決定



ご清聴ありがとうございました